

主 題：罪と向き合う3

聖書箇所：ローマ人への手紙 6章5-14節

私たちはこれまで、本当のキリスト者とはどのような人なのか、本当に救われた者とはどのような人なのかについて学んで来ました。思い出してみてください。

☆本当のキリスト者とは？

A. 罪に対して死んだ者 2節

B. キリストと結び合わされた者 3節

主イエス・キリストと個人的な特別な関係に入れられた人たちだと言います。創造主なる真の神と個人的な特別な関係に招き入れられた人たちです。そのことを教えたパウロは、「キリストと結び合わされた人」とはどのような者かということをつづけて教えてくれました。

1. 主イエスとともに生きる者 — キリストにつくバプテスマ 3節

主のいのちが私たちに与えられたのです。

2. 主イエスとともに死んだ者 — キリストの死にあずかるバプテスマ 3-4節

神に逆らい続けてきた自分は完全に確実に死んだ。だから、クリスチャンは生まれ変わった人なのです。これまでと同じようには生きられないし、生きようもしないのです。

3. 主イエスとともによみがえる者

— 主なる神の力によって生きる新しい人生を歩み始める 4節

私たちは主イエス・キリストとともによみがえった者として、死にも勝る偉大な全能の神の力をもって、この新しい歩みを始めて行くことが出来ると、そのことを私たちはすでに見て来たのです。

◎復活について 5節

クリスチャンの皆さん、神の恵みによって救われた私たちは新しい歩みを為して行くことが可能になったのです。実は、そのことについて、今日、私たちが学んで行くことばも同じことを教えてくれます。5節を見ると、今、私たちが見て来たように「死」と「復活」ということについて再び教えてくれるのですが、特に、この5節を見る時に、パウロは「復活」のすばらしさということに力点を置いて教えているようです。5節を見ると「もし私たちが、キリストにつぎ合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」とあります。主イエス・キリストとともに死んだ者は、必ず、主イエス・キリストとともに復活する、よみがえるとパウロは言うのです。この5節のみことばの中でパウロが非常におもしろく、また、意図的に使っている時制を見ていただきたいのです。パウロはここで「よみがえり」のことを話すのですが、このことに関して彼は未来形を用いています。ですから、この5節の「もし私たちが、キリストにつぎ合わされて」、これは完了形です。もうすでに終わったことです。そして、「キリストの死と同じようになっているのなら、必ず、キリストの復活とも同じようになるからです。」この「なる」というのが未来形なのです。だから、すでに救われた者、つまり、「つぎ合わされた者」(完了形)、その人はキリストの復活と同じようになると未来形で書かれています。今、敢えて、そのような説明をしたのは、それが非常に大切なことだからです。

ある人はその話を聞いて「当然ではないですか！キリストによって罪赦された人は間違いなくこの罪のからだから解放されて、栄光のからだをいただく日を待望しながら生きる信仰者になったはずですよ。」と言うでしょう。救われた一人ひとは、その先、将来を見て、栄光のからだをいただくときを待ち望みながら今を生きる訳です。パウロがピリピ3：20で教えるように「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。：21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」これが私たちクリスチャンの希望です。私たちはこのことを待望しながら今日を生きているのです。「私はいつか栄光のからだをいただく、罪を犯すことがない、神を悲しませることがない、死ぬことがない、病に苦しむことがない、その栄光のからだを私はいただくのだ。」と、そのことを待望しながら今日を生きているのです。ですから、未来形で良いではないかと、確かに、その通りなのです。新しくされた者、救われた者は復活の主と同じように栄光のからだをいただくときを待望しながら生きる者だからです。イエスにお会いするとき私たちはその栄光のからだをいただくからです。確かに、パウロは未来形を使ったのですが、これが文法的におもしろいところです。というのは、この未来形は、後に起こること、これから起こるといふ未来のことを言うだけでなく、真実を提示するときにも使うのです。つまり、パウロはここで、イエス・キリストを信じた私たちはキリストとともに

死んだ、それが事実であるがゆえに、キリストとともによみがえること、これも、確実な事実であるということを書いたかったのです。未来のことであるというのも間違っているのではなくその通りですが、パウロがここで言いたいことは、先のことではなくて「今」のことなのです。

5節のみことばには「**必ず**」という副詞がついていますが、実は、これは口語訳聖書には出て来ません。ギリシャ語にも出て来ないのです。これは敢えて補足されているのです。なぜなら、今説明した通りだからです。ここでパウロが言いたかったことは、このようなことはイエス・キリストを信じた人たちに確実に起こるということ、この約束はクリスチャンである一人ひとりには確実な約束だということなのです。だから「**必ず**」と言ったのです。「よみがえり」、確かに、私たちは栄光のからだに変えられるのは後のことです。でも、皆さん、イエス。キリストを信じたとき私たちは霊的によみがえったのです。新しく生まれ変わったのです。そのことをパウロはもう私たちに教えてくれました。今、私たちはよみがえった者として生きることが出来るのです。そして、将来を見たときに、私たちにはすばらしい約束が用意されているのです。そのすばらしい約束を覚えながら今日を生きることが出来るのです。私たちは生まれ変わったのだからと、これまでにパウロが教えたことをここでもう一度教えているのです。

C. 生まれ変わった者 6-10節

さて、復活について語ったパウロは、6節から、本当のクリスチャン、救われた人とはどういう人なのかという三つ目のポイントに入っていきます。すでに、私たちが見て来たように、救われた者とは罪に死んだ者であり、キリストと結び合わされた者である、そして、三つ目は生まれ変わった者だと言うのです。6節から10節にそのことを教えています。3節から5節でパウロは本当のクリスチャンはイエスの死と復活とにあずかった者であると教えて来ましたが、そして、その5節を受けて6節から、それゆえに信仰者が知っていること、クリスチャンたちが確信していることについて話し始めて行くのです。6節「**私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。**」、つまり、パウロがここから教えようとしていることは、すでにローマのクリスチャンたちが知っていたことだと言うのです。ある人々は、そのことはもしかするとパウロの独特の書き方で、知らなければならぬことを6節の後半にあるように「**私たちは知っています。**」という表現で、「あなたがたはこのことは知っておかなければいけません」と言わんとしたのではないかと思います。そのような考えもありますが、この前後関係を見るときに、パウロは当然、イエス・キリストを信じている者なら、神の恵みによって救われた者であるなら、この事実は十分に把握しているはず、そのことを「**知っている**」と確信をもっていたことが分かります。そして、それゆえに、この6節からあなたたちがすでに知っていること、すでに学んだことをもう一度教えようとするのです。

では、それはいったい何でしょう？もちろん、そのことをどの程度深く知っているかということとは別にして、少なくとも、「知っていること」とはどんなことでしょうか？6節「**私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられた…**」、つまり、これがクリスチャンが知っていることなのです。クリスチャンというのは「イエス・キリストを信じた私はイエス・キリストとともに死んだ。」と言う人です。言い方を変えるなら「私の古い人はキリストとともにもうすでに十字架にかけられた、死んだ。」です。実は、ここからパウロが教えていることはこれまでパウロが教えて来たことのより細かく詳細な説明です。全く違うことを教えようとしているのではないのです。ですから、再び、ゆっくりとこの大切なみことばを見て行きましょう。この6-7節は「死」について、8-10節では「生きること」について語ります。

1. 古い人の死 6-7節

パウロはここでクリスチャンは3-4節で見てきたようにキリストとともに死んだ者だけでなく、古い人を主イエスとともに十字架にかけて殺した人であると、そのように説明しています。

1) 古い人とは？ 6a節

そこで私たちが考えなければいけないことは、「**古い人**」とは何かということです。パウロは何を言いたいのでしょうか？ギリシャ語にこの「古い」と訳されることばは三つあります。

(a) アーカイオス：これは形容詞ですが、新約聖書の中に11回出て来ます。このことばの意味は「昔、古代」という意味をもっています。(参考=マタイ 5:21,33 ルカ 9:8,19 使徒 15:7,21,21:16 IIコリント 5:17 IIペテロ 2:5 黙示 12:9,20:2,)

(b) プロスブトロス：名詞ですが、新約聖書に66回も出て来ます。この意味は「年長の、老人の、長老」と訳せることばです。(参考=使徒 11:30,14:23,15:2,4,6,22,23,16:4,20:17,21:18、Iテモテ 5:17,19 テトス 1:5、ヤコブ 5:14、Iペテロ 5:1,5、IIヨハネ 1、IIIヨハネ 1,)

(c) パライオス：この形容詞は新約聖書の中に19回出て来ることばです。「年を取った、古い、使い古した」とした意味です。(参考=マタイ 9:16,17,13:52、マルコ 2:21,22 ルカ 5:36,37,39 ローマ 6:6、Iコリント 5:7,8、IIコリント 3:14、エペソ 4:22、コロサイ 3:9、Iヨハネ 2:7,)

この6節で使われている「古い」はこの中のどれでしょう？三つ目の「パライオス」ということばが使われています。先ほども触れましたが、このことばをもう少し説明すると、辞書は「使い古びた、古くさい、使い古した」という定義をします。つまり、これはだれも欲しいと思わないような古いもの、ボロボロになったものです。だれもが捨ててしまいたいと思うようなそれはいったい何でしょう？そのことを私たちが理解するために、もう一度、ローマ書のパウロの教えを思い出してください。

5章でパウロは、アダムと主イエス・キリストを対比していました。アダムは全人類に死と罪をもたらしましたが、主イエスは信じる全ての者に救いと完全な罪の赦し、そして、永遠のいのちをもたらしました。私たち、生まれながらにアダムにある者として生まれて来た者、罪の中に生まれてきた私たちが最も捨てたいものは何でしょう？この罪ではありませんか？アダムにある人として生まれながらにもっている罪です。ですから、この6節でパウロが「古い人」と言ったのは、一言で言えば、救われる前の罪の赦しを受けていない人のことです。

すでに、パウロはこの5章で「古い人」とはアダムにある人だと教えました。救われていない人、生まれながらの人であると。ですから、「古い人」とはこういう人であると言っています。5：7「**不敬虔な者**」、5：8「**まだ罪人であったときに**」、5：10「**もし敵であった私たちが**」、これが生まれながらの私たちだと言います。もう少しこのことを説明したいのでエペソ人への手紙2章を開いてください。3節「**私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。**」、ここには三つのことが言われています。

(1) 私たちはかつて救われる前は不従順な者だった、神に従っていなかったと言います。(2) 自分の欲の中に生きていた、自分の欲の欲するままに生きていた。(3) 自分の肉と心の望むままを行ないと、神に従おうなどと思っていない、自分の思い通りに、自分の考えるように生きていたと言います。だから、生まれながらに神の御怒り、神のさばきを受けるに相応しい者であったとパウロは言うのです。このように私たちの生まれながらの姿が見えます。生まれながらの私たちは例外なくみな利己的です。神に従うよりも自分の思い通りに自分勝手に生きたいと思っていたし、また、そのように生きて来たのです。そうではありませんか？生まれながらの私たちは、神のみこころよりも自分の考えや計画を優先して生きて来ました。私たちはみな、神から託された人生、また、時間を生きるはずなのに、それを自分のためにだけ用いることしか考えていないのです。また、神が喜ばれるかどうかということよりも、自分にとって喜ばしいことか、楽しいかどうかということしか考えずに私たちは生きて来ました。自分が楽しければそれでいいとしたのです。神がどう思われるかなど関係ない、私が楽しければ私が満足すればそれでいいのだと。かつての私たちはいかに利己的だったのかが分かります。私たちは自分の思い通りに生きようとし、現にそのように生きているのです。

ギリシャ語の権威であるヴァインという学者は、この「古い人」ということばに関してこのような説明をしています。「古い人は救われる前のかつての自我である。」と。自分中心に生きて来た私たちという意味です。また、ウェストミンスター神学校の組織神学の教授であったジョン・マレーは「これは古い自我、または自己、全人的に再生されていない人間のことである。」と言っています。つまり、救われていない人間のことで、そういう意味をもつことばだと言うのです。ですから、パウロがここで教えようとしていることは、このようにアダムにある人として神に逆らい続けて来た自分、自己中心的なこの自我を十字架につけたということです。今までの自分中心の生き方は十字架につけてそれはもう死んだと言うのです。ですから当然、救われたのなら、その時から自分中心の自我中心の生き方はもはや死んでいるのですから、継続出来ないのです。今度は自分中心でなく、神中心の生き方が始まるのです。自分の思い通りでなく、神のみこころに従って行こうという生活が始まるのです。そのことをパウロは教えたいのです。それが救いだ。ジョン・ストットという神学者は、「キリストとともに十字架につけられたのは、私の古い性質と呼ばれる私の一部ではなく、救われる前の私の全てである。」と言っています。だから、パウロがガラテヤ2：20で何と言っているのかを思い出してください。「**私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。**」

「私はキリストとともに十字架につけられました。」、私、私と言っていた自分はもう死んだ、私のことしか考えなかった自分は死んだ、私の思い通りに生きなければいけないとする自分は死んだと言うのです。「**もはや私が生きているのではなく**」、今までの私が生きているのではなく、「**キリストが私のうちに生きておられるのです**」、キリストの新しいいのちによって私は生きています。だから当然、これまでの「私」を中心にした利己的な生き方は終わるはず。なぜなら、「**十字架につけられた**」ということは「死んだ」ということだからです。十字架に架かって暫くの間苦しいというのではないのです。十字架に架けることは殺すためです、処刑です。ですから、パウロが言っていることは、このような過去の古い自分の生き方、自我を重んじたその生き方はもう死んだということです。これまでの私は死に、そして、キリ

ストのいのちにある新しい人生がスタートしたのです。これが救いだと言います。

そして、ローマ書に戻って、6節の初めにパウロは「**私たちの古い人**」と複数で言っていることは、パウロと同じようにイエス・キリストを信じる者たちは「新しい人」になっているからです。だから、かつての私たちを振り返って「**古い人**」と呼んでいるのです。「新しい人」とされた今の自分ではない、かつての神に逆らっていた自分、かつて自分中心に生きていた自分だから、その生き方に対してそれは「**古い人**」だと言ったのです。ヴァインは「この『古い』というのは『新しい』ものにとって代わられた、取り替えられたからそのような表現を使うのだ。」と言います。今新しいから、それ以前のもの全て古いものなのです。そこである人々はこのような考え方をもちます。イエス・キリストを信じた者たちは新しい人になった、これはいい、ところが、「古い人」がまだ自分の中にいる、だから、クリスチャンのうちには今までの古い自分と、そして、新しい人が共存していると。でも、それは聖書が教えていることではありません。ある人たちは「古い人」と言わずに「古い性質」と言います。「新しい性質」と「古い性質」があると。実は、「新しい人」と「古い人」とは聖書のことばですが、「新しい性質」と「古い性質」というのは神学的なことばなのです。先ほども話したように、キリストの恵みによって救われた者たち、新しい人となった人のうちに古い人が今もなお共存しているのかということそうではありません。今、私たちはみことばを見て来ました。古い人はどうなりましたか？十字架につけられたのです。古い人はもう死んだのです。死んだ者は生きていないのです。ですから、私たちクリスチャンのうちには二人の人が住んでいるのではないのです。言い方を変えるなら、二つの性質が共存してはいないのです。先ほども引用したジョン・マレーはこのように言います。「信者は古い人と新しい人の両方であるとか、彼のうちには古い人と新しい人の両方がいると考えることは誤りである。」と。私たちは新しく造られたからです。だから、パウロはこのように言っています。Ⅱコリント5：17「**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。**」、イエス・キリストを信じている全ての者は新しく造られたのです。古い人は死んだのです。そして、キリストのいのちが私の中で生きています。私は新しく生まれ変わった、それが救いだ。

このことに関してパウロは、コロサイ3章でも同じことを教えています。3：9b-10a「**あなたがたは、古い人をその行ないといっしょに脱ぎ捨てて、：10 新しい人を着たのです。**」、今、私たちが見て来たように「新しい人」と「古い人」のことです。「**古い人**」を「**脱ぎ捨てて**」、「**新しい人**」を「**着た**」と言うのです。これは「救い」のことです。つまり、救われた人とは「**古い人**」を脱ぎ捨てた人であり、同時に、「**新しい人**」を着た人なのです。ですから、この「**脱ぎ捨てる**」も「**着る**」もどちらの時制も過去形です。過去に起こったことだからです。今も継続してはいないのです。過去にそのようなことがもう起こった、イエス・キリストを信じたときに「古い人」を脱ぎ捨てて、私たちは「新しい人」を着たのです。これが「生まれ変わる」ということです。だからこそ、コロサイ3：10の続きを見ると、その後、「新しい人」がどのように行って行くのかを教えています。「**新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。**」、生まれ変わったからその人は変えられて行くと言います。この「**新しくされ**」は現在形ですから「**新しくされ続けて行く**」という意味です。造り主に似た者として、主イエスに似た者として変えられて行く、神の恵みによって救われた人には必ずそのような変化が伴うのです。

また、エペソ4章、ここでもパウロは同じことを教えています。4：22-24「**その教えとは、あなたがたの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、：23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、：24 真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。**」、「**人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと**」、この時制は先ほどから見ているように同じです、過去の出来事です。すでに起こった出来事なのです。パウロはここでも救いは「**古い人を脱ぎ捨てるべきこと**」、そして、新しくされて行く、24節の後半「**新しい人を身に着るべきこと**」と同じことが教えられています。これが救いです。生まれ変わるということなのです。

ローマ人への手紙に戻ってください。パウロがこの6章で教えようとしたことをもう一度見ましょう。2節には「**罪に対して死んだ**」とありました。何か印をつけてください（下線のところ）。3節「**キリスト・イエスにつくバプテスマ受けた**」、4節「**キリストとともに葬られたのです。**」、6節「**私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、**」そして、「**罪のからだは滅びて、**」、7節「**死んでしまった**」、8節「**キリストとともに死んだ**」。これらは全部同じ時制なのです。すべて過去のことを言っているのです。今、起こっていることでも、今から起こることでもないのです。つまり、パウロが言いたかったことは、今、私たちが見ているように「**死んだ**。私は死んだ。かつての自分は死んだ。そして、新しい自分が誕生した。」ということなのです。パウロはこうして私たちに「**古い人は死んだ！神に逆らい続けて来た私たちは死んだのだ！私たちのかつてのその自我は死んだのだ！私たちは新しい自分、新しい人として生まれ変わったのだ。**」と、そのことを繰り返しているのです。イギリスのロイド・ジョーンズ博士はこのように言います。「**あたかも、あなたがたがまだ古い人であるかのように生きるのは止めなさい。なぜなら、古い人は**

死んだのです。彼がまだ生きていたかのように生き続けるのを止めなさい。」と。

パウロがまずこの6節で私たちに教えたことは、「古い人、私の古い人はキリストともにもうすでに十字架につけて死んだ。」ということです。その事実を述べた後、その後、パウロは非常に大切なことを教えて行きます。それらは関連していることですが、その「死の結果」と「死の目的」についてまでも語って行くのです。

2) 死の結果 6 b - 7 節

私が「私の古い人をキリストとともに十字架につけた」ことによって何が起こったのでしょうか？

a) 罪のからだが減じた

「**罪のからだが減じて**」と書かれています。「**罪のからだ**」についてジョン・カルビンはこのように言います。「**罪のからだとは肉と骨を指すのではなく罪の固まりである。**」と。私たちは悲しいことに生まれながらに罪に罪を重ねているからです。また、神学の教授だったクランフィールドは「この罪のからだは罪の支配下にいる人のことである。」と言っています。ですから、パウロが言いたかった「**罪のからだ**」とは「**罪によって支配されてきたからだ**」のことです。なぜ、そのように言えるのでしょうか？次を見ると「**私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。**」、「**罪の奴隷でなくなるため**」、奴隷から解放されたと書かれているからです。ですから、罪によって支配されていた私たちは感謝なことにその状態から解放されるのです。そのことを見て行く前に目を留めるべきところがあります。それはこの「**減じて**」ということばです。新改訳聖書のこの箇所の欄外引照には「無力になり」という別訳があります。ですから、この「**減じて**」ということば、この動詞は「無力にする、無効にする、解放する」という意味があります。ローマ3：31には「**それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。**」と書かれています。この「**無効にする**」ということば、また、4：14にも「**もし律法による者が相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。**」と「**無効になってしまいます**」というこのことばが同じです。ですから、「**罪のからだが減じて**」とは、罪のからだが無効となり、罪のからだが無効になるということです。もう少しこのことばを見ると、「働かない、実を結ばない、活動しない、役に立たない」、また、「あるものとの結合、関係から解放されて自由になる」、そのような意味があるのです。そうです、「解放される」のです。ローマ7：2には「**夫のある女は、夫が活着している間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。**」とあります。7：6には「**しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。**」とあり、このように訳すことができることばなのです。だから、パウロがこの6節で言いたかったことは「**罪のからだから解放される**」ということです。

ジョン・マレーはそのことに関して「**信者のからだはもはや罪によって制約され支配されるからだではない。なぜなら、解放されたからです。**」と言っています。なぜ、このことが大切かと言うと、皆さん、私たちはその罪の束縛から解放されたから、私たちはこのからだを用いて神の栄光のために生きることが可能となったからです。パウロが私たちに教えていることは、罪の奴隷であった私たちは、6節に見た通り「**古い人を十字架につけた目的は罪の奴隷からの解放である**」ということです。私たちは救いにあずかるまで罪の奴隷であり、罪に対して自分ではどうすることも出来なかったのです。私たちが出来た唯一のことは罪を犯すことでした。罪に罪を重ねることなのです。私たちは罪の奴隷だったからそれしかできなかったのです。選択肢はなかったのです。聖書が教えること、それは私たちは生まれながらに神を喜ばせることは一切出来ない、罪に対して私たちは無力だということです。

ところが、パウロが教えているのは、私たちが生まれ変わったときに何が起こったのかということです。私たちを捕えていた、束縛していた、支配していた罪の力から私たちが解放されたのです。もう罪は私たちの主人でなくなったのです。だから、私たちが罪が言うことを聞き続ける必要はなくなったのです。罪が主人ではないから、もう私たちが罪の奴隷ではないからです。それだからこそ、パウロは、またパウロだけでなく私たち信仰者に、みことばはこのように生きて行きなさいと教えるのです。ローマ12：1に「**そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。**」とあります。つまり、パウロが言いたいことは、私たち信仰者、キリストの恵みによって救われた一人ひとは、かつては罪のとりこになり罪の奴隷であったこのからだを用いて、神の栄光を現わして行くことが出来る者に生まれ変わったということです。お分かりですか？これが救いなのです。かつての自分には出来なかったことを神はさせてくださるのです。生まれながらに神に仕えることなど出来ない、神の栄光のために生きることが出来なかった罪人である私たちが、生まれ変わることにによってそれが可能となったのです。

3) 死の目的 6 b - 7 節

6 b 節に「古い人がキリストとともに十字架につけられた」のは「**私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるため**」であると、その目的が記されています。6：19にはこのように記されています。「**あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。**」と、これが出来る者になったのです。なぜでしょう？クリスチャンの皆さん、あなたは生まれ変わったからです。あなたのその罪のからだは滅んだのです。「**私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを**」と、もうあなたは罪の奴隷ではなくなったのです。すばらしいことと思いませんか？このようなすばらしいわざを神が一方向的に私たちのために成してくれました。しかし、そうであるのに、信仰者である私たちは毎日の生活を振り返るといろいろな罪に苦しんでいます。罪との葛藤の中を生きています。でも皆さん、これまでと違うことは、これまでには罪に対してどうすることも出来なかった、罪から抜け出すことが出来なかった私たちが、今はその罪に勝利することが出来る者になったということです。勝利することが出来る者になったのであって、常に勝利する者になったということではありません。悲しいことに、現実には、私たちは罪との戦いに敗北することがたくさんあるのです。なぜなら、このように新しされたにもかかわらず、私たちはまだこれまでの生き方を覚えているからです。これまでの生き方が私たちを誘惑するからです。今までと同じように生きなさいと、その葛藤の中にいるのです。パウロのことばを借りると「**私たちのうちには贖われていない肉がある**」のです。だから、私たちはこの罪との戦いを続けるのです。

でも、そのような現実の中にあって、私たち信仰者が覚えなければいけないことは、もう私は罪の奴隷ではないということです。だから、信仰者として正しい歩みを為して行くために必要な助け、それはみことばが教えているように、この「みことば」であり、そして、「与えられた聖霊なる神の助け」なのです。「**神の武具を身につけなさい**」と言われました。戦いが大変だからです。私たちは今、まだ戦場にいるのです。この罪との戦いです。ペテロは1ペテロ4：1-4でこのように言っています。「**このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受けた人は、罪とのかわりを断ちました。：2 こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。：3 あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行ない、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけたものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。：4 彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎした放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。**」。

そして、皆さん、なぜ、神のご計画の中にこのような「教会」が存在するのか考えてみてください。神は救われた者に聖書を与え聖霊を与えてくださいました。なぜ、それで終わらなかったのでしょうか？なぜ、私たちに教会を与えられたのでしょうか？「使徒の働き」を見ると、イエスが言われた通りに教会が誕生して行きました。書簡を見ると、その教会はどうあるべきか、どのような教会が神の前に正しい教会なのか、教会としてどのように活動すべきなのかを教えてください。なぜ、このように神の計画の中に教会があるのでしょうか？私たちが勝利ある生活を継続して行くために聖書が必要です。聖霊が必要です。同時に、教会も必要なのです。こうして皆さんが集って来られていますが、教会に来てもいつまで経っても何もしないなら、はっきり言えることは、皆さんの信仰はなかなか成長して行かないということです。なぜなら、神の計画は一人ひとりが自分の賜物を用いて主に仕えて行くことだからです。どうぞ、主が教えてくださる方法で歩み続けてください。そのときにあなたは成長します。罪との戦いはあります。罪に対する敗北も私たちは毎日経験します。でも、私たちが確信をもって高らかに誉め称えなければいけないことは、「もう私は罪の奴隷ではなくなった。死に敢然と打ち勝たれたイエス・キリストのもとにあり、私は勝利者としてこのキリストの助けによってこの導きによって、私は勝利ある生活を歩んで行ける」ということです。これが生まれ変わった信仰者なのです。

「救い」とはすばらしいものです。「神の恵み」とはすばらしいものです。神はこのようなわざを私たち信仰者のうちに成してくださったのです。信仰者の皆さん、私たちは生まれ変わったのです。古い人は十字架で死んだのです。そして、イエス・キリストのいのちによって生まれ変わった私が、今生きているのです。何のためにでしょう？このすばらしい神の栄光を現わして行くためです。そのために生きることです。その神のために！！